

# 平成27年度 学校評価実施報告書

## 3 2回目評価

・重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定						・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果		
1	確かな学力	学び合いを通して、思考力・表現力の育成 読書の習慣化 家庭学習の習慣化と充実	「算数科」を中心に思考力と伝え合う力を伸ばす。 全学級年1回の授業研究 朝のさわやか読書の実施 「お話し」「ブックトーク」と100冊読書への啓発 家庭読書の啓発 学級だよりによる家庭学習の啓発と学習方法の紹介	アンケート項目・各種指標 「進んで学習に取り組んでいる」 ジョイントプログラムの結果 読書ノートの活用と100冊表彰 図書館利用状況 「家(で15分)×学年の勉強をする。」	アンケート結果・各種指標結果 「進んで学習に取り組んでいる」児童は若干下がった。ジョイント・ブレジョイントプログラムは全学年で全市平均より高い。 100冊読書達成者は全校児童の40%。朝読書、お話しやブックトークにより、図書館利用は多いが、家庭読書は伸びない。 前期に比べて児童はやや減っている。保護者は15%減っている。	⇒
2	豊かな心	学校のきまりを守る規範意識の向上 自分も大事人も大事にする心の育成 豊かな体験を通じた協働活動の実施	「学校のきまり」「みんなが楽しく過ごせる八瀬小学校にするための10のやくそく」の徹底 毎月の「友だちの日」の取組「友だちグループ」によるたわわり活動の実施 地域の方の協力のもと「田植え・稲刈り・野菜作り」等の栽培活動と「灯籠教室」等伝統文化活動の実施	「学校のきまりを守る」 「自分から進んであいさつをする」 「だれとでも仲良くできる」 「PTAや地域の行事に参加している」	学校の決まりを守れている児童は9割を超えている。 「だれとでも仲良くできる」は9割を超えていて児童は100%。「あいさつ」についても随分増えてきた。 行事への参加が約8割まで増えてきた。	⇒
3	健やかな体	基本的な生活習慣の確立 体力の向上	長期休業明けの「生活リズム調べ」の取組 保健室だよりによる啓発 「ロング昼休み」での全校外遊びや部活動による運動の習慣化 中間ランニングの実施	「早寝早起き朝ごはん」等規則正しい生活をする 「運動やスポーツを通して体力を高める」	児童の回答は80%に対して、保護者はやや減って75%。 保護者は変化はないが、児童は95%を超えてきた。	⇒
4	独自の取組	情報発信の充実	全教職員による積極的なホームページの更新 学校だよりの地域への配布	「学校は、教育方針や取組の様子を学校だよりやホームページなどで分かりやすく伝えている。」 アクセス数	保護者の回答は90%を超えている。保護者ボランティアによる全戸配布の実施。	⇒

学校名( 八瀬小学校 )

自己評価		学校関係者評価	
評価日	平成28年2月26日	評価日	平成28年3月16日
評価者・組織	全教職員	評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
分析(成果と課題)	自己評価に対する改善策	学校関係者評価による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
算数科の取組により、学力の向上が見られた。学校の勉強がよくわかると答えているのに、「進んで学習に取り組む」はポイントが減っている。自主的な学習については、個人差が大きく、宿題だけに終わってしまっている児童も多いようである。	授業はよく分かるが、意欲的に学習に取り組む気がない、進んで勉強する気にならないという児童の傾向がみられるので、わかりやすさとともに、学習の面白さや興味を持たせる指導の工夫を追究していく必要がある。	よくわかっている児童が多いので、授業の中で余裕がありすぎている。また、集中力が続かない児童もいる。よくわかっている児童への対応を考えるべきではないか。	少人数なので全員がわかるようにしたいという思いで担任は関わり、できている子への対応もしているが、今後さらに力をつけられるような授業の工夫を考えていく。
あいさつについては、児童のポイントが上がってきた通り、改善されてきているように思われる。ただ、高学年についてはもう少し、自分から進んで元気にあいさつできるようにしたい。PTAや地域の行事への参加が増えてきた。誰とでも仲良くできるが100%だが、友達に輪に入りきれない児童もいる。	全教職員で共通理解し、保護者にも呼び掛けてみんなで取り組んできた成果なので、今後も根気強く声掛けしていくことが大切である。友だちの輪に入りきれない児童については、仲間外れにされているわけでもなく、自分の気持ちを話すことはできているので、様子を見守っていく。	あいさつはできるようになってきているようだが、まだまだ課題はある。自分から進んではできなかったり、相手の顔を見ていなかったりする。人と話すときの大切なことである。仲間に入りきれない児童については、以前と比べよく話すようになってきている。	人と話すときは顔を見て話すことや、自分から進んであいさつすることは、人として当たり前のことなので、学校で指導していくとともに、家庭にも協力してもらい、子どもにとって良いと思われたい。地域も声を掛けて助けていく。
規則正しい生活ができている児童が多いが、中には夜遅くまで起きている児童もある。ロング昼休みの取組により、全校で外遊びをする機会が増えた。	家庭環境にもよるので、絶えず保健だよりや学級だよりで啓発するとともに、個別に指導する必要がある。ロング昼休みは来年度も続けていく。	子どもにとって良いと思われる取組は、これからも続けていくとよい。	いろいろな学校の取組には、積極的に協力していく。
ホームページについては、保護者の関心も高いので、日常の学習の様子や学校行事の様子を全教職員で載せるようにしている。学校だよりは、保護者ボランティアの協力を得て、地域全戸配布した。	ホームページは保護者にとって学校の情報を得る重要な情報源になっているので、今後も全教職員でこまめに更新していく。学校だよりの全戸配布は、保護者の協力のもと続けていきたい。	ホームページや学校だよりの地域全戸配布によって、地域みんなの学校の様子が伝わる。	学校だよりやホームページを利用して、学校の取組や様子に関心をもってみていく。

## 4 総括・次年度の課題

今年度は、「学校評価アンケート」をもとに子どもの姿について話し合うことができた。学力向上や子どもたちの様子については、いろいろな行事を通してよく見て関心が高かった。特に「あいさつ」については年間通しての話題になっており、これから成長して社会へ出ていく子どもたちに、人として大切なことをしっかりと身につけさせてやりたいという思いが伝わってきた。また、子どもたち同士の関係についても、より良い仲間作りを目指す必要性があること、学習についてはより力を伸ばしていくために学習の工夫をしていくことについても熱心に話し合われた。子どもたちのことについては、惜しみなく協力していくとの思いを聞かせていただいた。

来年度は、今年度の反省から引き続き「あいさつ」について、学校・保護者・地域で協力して朝の声掛けや行事での関わりを通して、より良い子どもの姿を目指して取り組んでいきたい。